

式 辞

【はじめに】

ただいま、卒業証書をお渡ししました卒業生の皆さんに心からお祝いを申し上げます。

「皆さん、ご卒業おめでとうございます」

そして、お子さんをこれまで育ててこられた保護者の皆様、本日は誠におめでとうございます。さまざまな困難を乗り越えて、立派に成長された姿を皆様とともに喜びたいと思います。

また、ご来賓の皆様方には、ご多用の中ご臨席を賜り、誠にありがとうございます。本校のことをいつもお心にかけていただき感謝に堪えません。職員を代表いたしまして厚くお礼申し上げます。

【入学式でのこと】

さて、私は、3年前の入学式で皆さんにお話をしたことを今でも鮮明に覚えています。その時、これから高校生活を送るみなさんに2つのことを心がけてほしいと伝えました。

その中で、安積得也（あずみ とくや）という人の詩に出てくる「未見の我」という言葉を紹介しました。

自分の中には 自分の知らない 自分がある

みんなの中には みんなの知らない みんながある

私は、「未見の我」という言葉を、皆さんがまだ気がついていない自分自身のことと解釈しています。3年間の高校生活をとおして、ぜひ自分の中に秘められている、この自分も知らない未知の力、限りない可能性をみつけてほしいと言いました。

翠嵐での高校生活をとおして、皆さんは、どんな「未見の我」に気が付きましたか。大きな夢や目標を立て、さまざまなチャレンジをしたと思います。その中には、うまくできたことだけでなく、そうでなかったこともたくさんあったでしょう。しかし、その一方で、多くの人と出会い、自分にはないものを学び、自分を一回り成長させることができたと思います。ぜひ、その「未見の我」を次の目標に変えて、さらなる目標達成に向けて努力してください。そのためにも、人生の大きな節目のひとつである「卒業」という今日この日の今の思いを、大切にしてください。

【22世紀への架け橋となる皆さんへ～人類は何処へ向かおうとしているのか、社会は何をめざしているのか～】

次に、これからまもなく社会に出て、21世紀を生き抜き、22世紀への架け橋となる皆さんにお願いがあります。

今、世界は大きな岐路に立たされているような気がします。今後、私たち人類は何処へ向かおうとしているのでしょうか。そして社会は何をめざしているのでしょうか。誰に聞いても『平和で一人ひとりが豊かな生活を送れる社会』というような答えが返ってくると思います。

しかし、現実とは違います。思わず目を覆いたくなるような、そして耳をふさぎたくなるような出来事が世界中から、そして私たちの国からも毎日のように報道されてきます。

20年ほど前、『世界がもし100人の村だったら』という本が話題になり、例えば「100人のうち75人が食べ物の蓄えがあり雨露（あめつゆ）をしのぐところがあります。でも、あとの25人はそうではありません。17人は、きれいで安全な水を飲めません」や「20人は栄養が十分ではなく、1人は死

にそんなほどもです」という一文一文に衝撃を覚えました。しかし、その数字は今、もっと偏ってしまっているように思えて仕方ありません。その格差が、今世界各地で起きている『争い』の原因の一つであることは間違いないでしょう。人間はこれまで「物質的な豊かさ」を追求するあまり、かけがえのない自然や時には国や文化の違う人たちまでも犠牲にしてきました。『豊かさ』には、「物質的な豊かさ」と精神的つまり「心の豊かさ」があると言われます。

【心豊かに生きるということ】

20世紀後半になって、私たちはそのことに気づき、国や地域を超え地球的規模で自然を取り戻す取組や経済的支援、開発援助が行われています。大量生産・大量消費は見直され、ものを大切にするという意味の「もったいない」は世界でも使われる日本語になりました。しかし、私は、今度は「別の何か大切なもの」を犠牲にして「豊かさ」を求めているような気がしてなりません。それは、「自分を大切にする心」と「お互いを認め合う心」だと思います。

現在の日本の若者を取り巻く環境は、まだまだ決して「良い」とはいえない状況です。私は、自分が卒業した高校の校歌で、「七転八起」ではなく「九転十起」だと教わりました。

これからの人生においては、成功だけが続けることは難しく、むしろ失敗をすることの方が多いいものです。しかし、全ての失敗は成功のための踏み台に過ぎません。高校生活で身に付けた「生きる力」に自信を持って、失敗を恐れずこれからの人生を切り開いていってください。

【終わりに】

今日で、皆さんとの3年間もお別れとなりますが、本日の私たちの幸せな気

持ちはまぎれもなく皆さんのおかげです。この感謝の気持ちを、卒業生の皆さん一人ひとりに差し上げたいと思います。

卒業おめでとう、そしてありがとうございました。元気に翔び立ってください。

平成30年3月1日 神奈川県立横浜翠嵐高等学校長 佐藤 到